

第5回松本市教育振興基本計画策定委員会 会議録

1 開催日時 令和8年10月9日（金） 午後1時00分から午後2時40分まで

2 場 所 松本市立博物館 講堂

3 出席委員

委員長	荒井 英治郎 氏
委 員	海野 暁光 氏
委 員	大久保 秀樹 氏
委 員	相馬 路子 氏
委 員	中田 安子 氏
委 員	西森 尚己 氏
委 員	原 明芳 氏
委 員	平林 文 氏
委 員	松島 恒志 氏

4 事務局 曾根原教育長、赤羽教育次長、山名教育監、小西教育政策課長、内山学校教育課長、輪湖学校給食課長、野口生涯学習課長、藤森中央図書館長、降旗教育政策課課長補佐、竹内教育政策課係長、大久保教育政策課主任、伊藤教育政策課主任

<会議事項>

（協議事項）第4次松本市教育振興基本計画（草案）の検討

（1）表紙から4ページまで

（委 員） 最終的に、計画はカラー印刷の冊子などの作成を予定しているか。

（小西教育政策課長）

現行計画と同様にカラー印刷の冊子作製を予定していますが、ホームページ上にデータで公開することを予定し、デザインは現在検討中です。

（委 員） 教育大綱の内容は、スライドの資料が教育大綱ということか、また掲載は1ページに4スライドとなるか。

（小西教育政策課長）

ボリュームのスリム化という方針で4枚を集約して掲載していますが、文字が小さくなることもあって、1ページに1枚を掲載する方が良いと考えています。

（委 員） 最後のスライドの内容は3点の重点項目を記載しているが、今回もこのままの内容を掲載するのが適切か、再度確認されたい。

（委 員） 概要版の作成の予定はあるか。

（小西教育政策課長）

A4の見開きで、分かりやすいデザインの資料の作成を検討しています。

（委 員） 概要版は紙1枚くらいの方が、配りやすくて良いと思う。分かりやすいもので作成してもらえば良いのではないか。

(2) 5 ページから 9 ページまで

(委 員) 7 ページの「遊びとは」のコラムは、子どもたちを対象とした内容となっているが、大人も遊び心を持って暮らす、生涯にわたる学びの視点も入れてはどうか。

(委 員) 子どもの遊びは、何気なく始めたことが発展していくもの。大人の「遊び」の感覚とは異なるので、定義を考えて記載してほしい。

(委 員) 構成として、まずキャッチフレーズがあり、キャッチフレーズの説明や理念、計画の特徴を記載するのが良いのではないかと。各論とキャッチフレーズの間の格差があり、方針や各事業からコンセプトとなるキャッチフレーズに戻ることが難しいので、両者のつながりを意識できるような内容・構成を検討してほしい。

(委 員) 9 ページの各論・体系図の前に、6 ページの人権保障のイメージ図があると、各論の体系図につながりやすい、分かりやすいのではないかと。

(委 員) 理念、キャッチフレーズ、特徴、人権保障のコラムの順ではどうか。

(委 員) 計画を広報していく際に図は大事になってくるため、工夫してほしい。

(3) キャッチフレーズについて

(委 員) 「ともに」はみんなで一緒にというイメージがあり、みんなの輪に入っていない人にとって、苦しい印象がある。

(曾根原教育長)

「ともにまなぶ」には共に・一緒にまなぶ、という意味と、友から・他者からまなぶという二つの意味を持たせています。また、「みんなで」には、当事者意識を持てず参画してもらえない人に対して呼びかけて、一緒に取り組んでいきたいという思いを込めています。

(委 員) 実現できることか分からないが、計画の内容を示して、市民からキャッチフレーズを募集するということはどうか。計画の周知につながり、市民の記憶にも残るのではないかと。

(委 員) 実現はかなり難しいが、今後の計画の発信において大切な視点ではないかと。

(委 員) まずは一人ひとりが尊重されて自分らしく学ぶことができ、次の段階として、他者を認めて一緒に学んだり、みんなで当事者意識を持って取り組むという建付けではどうか。

(委 員) 一旦は、第 4 次計画における合言葉、掛け声ということで、この案を進めていくということはどうか。

(他の委員も同意)

(委 員) 第 3 次計画の理念などがベースとなっていることをきちんと伝えつつ、キャッチフレーズに込めた意味や思いも説明することが必要ではないかと。

(4) 各論（分野の順番に整理）

(委 員) 発達段階や理解したうえで、その時の子どもに対する関わり方、子どもの育ち、学び、経験が、将来のその子どもの成長、人生にどうつながっていくのか、ということが分かる内容になっていると良い。

(曾根原教育長)

今回は第 3 次計画の理念や体系を継承しつつ、これまで内容の見直しを行って

きたため、対応は難しいです。

(委員) 2-1の施策の方向性(1): 前回から修正されて、すっきりとして分かりやすい記載になった。

(委員) 2-1の成果指標: 遊びに関する指標が無い。意識的に「遊び」の概念を施策に取り入れていかないと、実効性が低いものになってしまう。

(委員) 指標とするためには、「遊び」の定義、どのように数値化するかを検討する必要があるが、一旦は検討してみてほしいという理解でよろしいか。

(委員) はい。

(委員) 「探究」に関するコラム: 地域や社会などに関わらないと探究はできないという内容ではなく、一人でも探究することはできるという内容になっているとありがたい。

(委員) 「探究」に関するコラム: 「探求」ではないこと、一般の方に分かるように記載してほしい。

(委員) 2-2の施策の方向性(2): 中学校卒業後にドロップアウトしてしまう子どもへの支援は、切れ目のない支援として記載されている内容で良いのか。

(委員) 若者参画課などの事業・取組みや指標として、計画に記載できるものはないか検討してほしい。

(委員) 幼少期から、安全基地とチャレンジの循環、失敗したときに安心して戻って来られる場所が無いと、大きな失敗に対して不安定になってしまう。子どもの権利条例にも記載があるが、失敗してもチャレンジできるというまちになると良いと思う。

(委員) 2-2の成果指標: 地域や多様な世代と関わることが良いこと、という発信になってしまうのではないか。

(委員) 若者の活動を応援する施策として、大切にしたい指標であると思う。一方で、他に指標が無いか検討もされたい。

(委員) 2-3の施策の方向性(2): 現状と課題では、「全ての教職員が特別支援教育に関する知識・技能を習得していることが求められています」とあるが、施策の方向性では、知識・技能の習得の対象が、全ての教員になっているように読めない。

(委員) 特別支援教育の知識・技能の習得は「管理職や通常学級の担当職員」までかかっているが、文章表現を見直していただいても良いのではないか。

(委員) 2-3の施策の方向性(3): 教職員の「人間性」という記載でなく、人権感覚や資質能力の向上といったものがふさわしいのではないか。

(委員) 「人間力の向上」「人間性の回復」でもよいのでは。

(委員) もう少し抽象的に「働き方改革の推進」などとしても良いのではないか。

(委員) 2-4の施策の方向性(2): 不登校が出ない学校づくりという方向性は入れられないか。

(委員) そのような記載があったときに、不登校のお子さんがどう感じるか、登校復帰を前提としない政策と逆行する方向性と思われてしまわないかという懸念がある。

(委員) 2-4の施策の方向性(3): 何でも地域など外部と一緒に新しいことをやるのではなく、子どもと先生の関係性をきちんと構築していくことで、子どもが学校に

行きたいと思える学校づくりを進めることが必要ではないか。

(委員) 2-4の施策の方向性(4)、項目2:「～共感や思いやりを持って向き合い、多様な価値観を認める国際感覚～」としてはどうか。

(委員) 2-4の施策の方向性(4)、項目3:地震だけでなく水害など様々な災害を含む記載としてはどうか。

(委員) 2-4の成果指標:不登校の子どもが増えてほしくないと思っているので、オンライン教育支援センターの利用者の割合という指標はどうかののだろうかと思った。

(委員) 不登校に関する指標以外に、指標にできるものは無いか。

(曾根原教育長)

市の第12次基本計画で設定している指標の採用も検討します。

(委員) 2-4の主な事業・取組み:不登校児童生徒支援事業には、こども育成課を記載してほしい。

(委員) 2-5の施策の方向性(5):不登校に限定せず不登校傾向も含める、居場所だけでなく学びの場づくりとした方が良いのではないかな。

(委員) 「不登校等」にしてはどうか。

(委員) 2-6の施策の方向性(3):今後5年間の計画として、クマの出没が続くのか、クマ以外の問題もあるのではないかなという点で、「熱中症、クマ等の出没等」という例の記載は必要ないのでは。

(委員) 行政として予算化が始まっているといった事情があれば、記載を合わせておく必要があるのではないかな。

(委員) 3-1の施策の方向性(4):松本型・国型コミュニティ・スクールについて、一般の方に違いは分かりづらいと思われるので、丁寧な説明が必要ではないかな。

(委員) 次ページの余白に、図などを用いて記載しても良いと思う。

(委員) 3-1の成果指標:国型コミュニティ・スクールへの移行率を指標としているが、国型コミュニティ・スクールが必ずしも良いものではないという論点がある中で、これを指標として良いのかという課題もあるのではないかな。

(委員) 4-2の施策の方向性(4):「来館しなくても」というネガティブな表現なので、「家からでも」といったポジティブな記載にしてはどうか。

(委員) 5-2の成果指標:性的役割分担の是非といった大枠な意識ではなく、個別具体的な考えを指標とするのが良いのではないかな。

(委員) 既存の経年比較できる調査によって設定していると思われるが、もし他に指標とできるものがあれば検討されたい。

(委員) 5-3の現状と課題・施策の方向性(5):「障がいのある者と障がいのない者」という記載は、両者を分け隔てている印象があるので、「障がいの有無にかかわらず」という表現が良いのではないかな。

(委員) 5-3の成果指標:保護者の回答は、当事者に限定しない市内の保護者全体へのアンケートだと思われ、実際の事業の充実度というより、事業や取組みの認知度を測ることになってしまうので、検討してほしい。

(閉会)